

# オリコンサル AR で安全対策支援 道路空間 可視化 合意形成を円滑化

オリエンタルコンサルタンツは、福岡大工学部電子情報工学科の小野晋太郎准教授と共同で、AR（拡張現実）技術を活用した生活道路向けの交通安全対策可視化ツールを開発した。スマートフォンやタブレット端末を現地の道路空間にかざすだけで、対策に有効なハンプやボラード、歩車道境界ブロックなどの施設を実際の風景に重ね合わせて表示できる。

同社が培ってきた生活道路対策の知見をベースにメニューや仕様の検討を担当し、福岡大がAR可視化技術とユーザーインターフェースの開発を担った。

ツールはウェブブラウザ上で動作するため、専用アプリのインストールが不要

で、地方自治体の業務用端末から地域住民のスマートフォンまで手軽に利用できる。

成の場でツールの活用を進め、機能の改善・高度化を図る方針だ。

これまで図面や写真で行われていた対策検討や住民説明を実際の道路空間上での具体的なイメージ共有へと進化させることで、複数案の比較検討だけでなく、ワークショップや現地確認といった地域住民との合意形成の場で円滑かつ効果的な意思決定を支援する。

背景には、中央線や車両通行帯のない一般の生活道路での自動車の法定速度が30km/hに引き下げられるなど、歩行者の安全確保に向けた取り組みの強化がある。

同社は今後、自治体担当者による検討や住民との合意形